

「人材確保の状況について」のアンケート結果について

人材確保の状況について（概要版）

平成 26 年度の自動車整備業の実態調査で、整備事業場の整備士不足の状況や、整備士の求人活動を行った理由、またその求人活動の結果についてのアンケート調査を実施したので、その概要についてまとめた。

詳細については、3 月発行予定の「平成 26 年度版自動車整備白書」に掲載する予定です。

1. 調査対象と回答状況

(1) 調査対象

- ・専兼業、ディーラー、自家の事業場。

(2) 回答状況

・回答数

○人材確保の現況、求人活動の有無について

…9,108（専兼業 5,881、ディーラー2,943、自家 284）

○求人活動の理由、結果について

…上記事業場の内、実際に求人活動を行った事業者 3,900 について集計を実施。

（専兼業 1,779、ディーラー1,976、自家 145）

2 人材確保の現況について<第1表参照>

(1) 全体の状況

①現在の事業場の人材確保の状況について、次の3つの選択肢から最も近いものを選択してもらった結果、全業態をまとめた全体では「整備士不足の状態にない」が45.2%、「整備士不足の状態にあるが、事業への影響は少ない」が37.0%、「整備士不足の状態であり、事業に影響をきたしている」が10.9%となった。

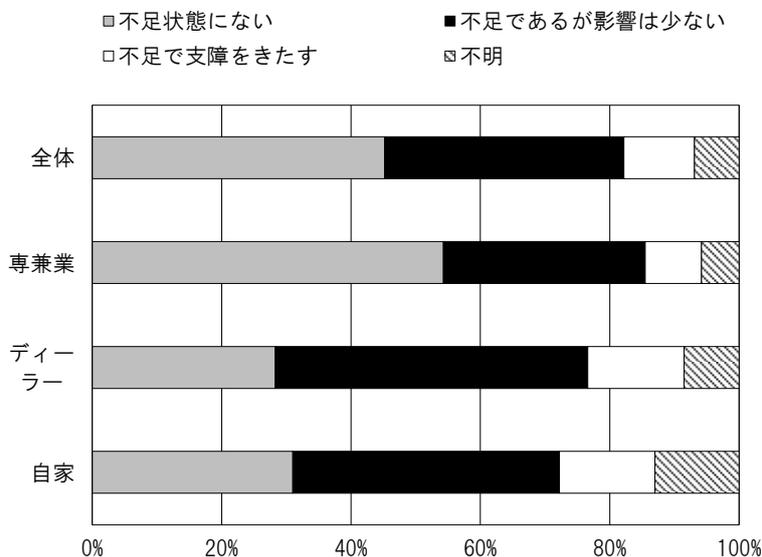
②「整備士不足の状態にはない」が45.2%と最も多くなっているが、「整備士不足の状態にあるが、事業への影響は少ない」と「整備士不足の状態であり、事業に影響をきたしている」を合わせた「不足状態にある」と回答した合計は47.9%となり、「不足状態にある」が「不足状態にはない」より多く、約半数の事業場では整備士不足の状態にあると推測される。

(2) 業態別の状況

①「整備士不足の状態にはない」との回答は、専兼業が54.3%でディーラーの28.3%に比べて26.0ポイント高い。

②「整備士不足の状態にあるが、事業への影響は少ない」と「整備士不足の状態であり、事業に影響をきたしている」を合わせた「不足状態にある」のはディーラーが63.2%で、専兼業の39.9%より23.3ポイント高くなっている。

<第1表> 整備士不足の現況

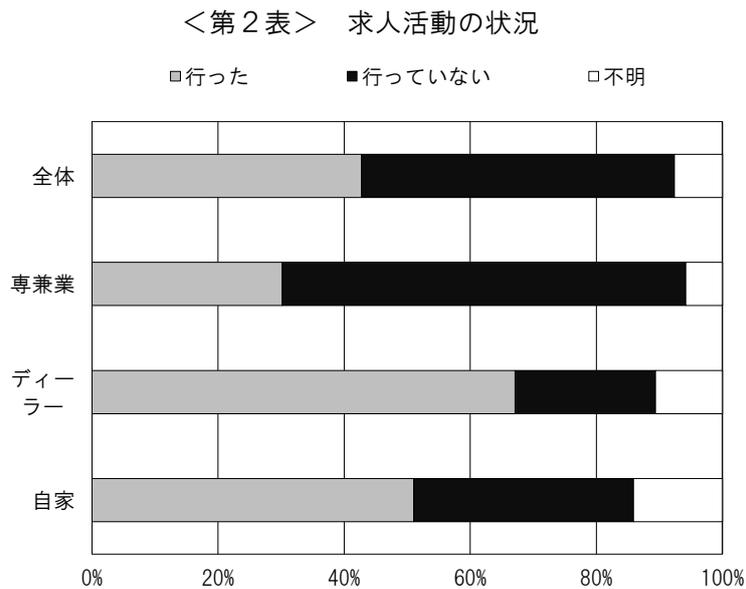


3 求人活動について

(1) 求人活動の有無<第2表参照>

この1年間の求人活動についての状況を調査した結果、次の通りとなった。

- ①全体では、「求人活動を行った」は42.8%で、「行っていない」は49.6%であった。
- ②業態別の求人活動については、ディーラーの求人活動を行った割合が高く67.1%で、専兼業の30.2%に比べて36.9ポイント高くなっている。



(2) 求人理由<第3表参照>

求人活動を行った理由について、複数選択可で回答してもらった結果は次の通りとなった。

① 全体の状況

求人活動を行った事業場の求人理由の内容は、「退職者の後任として」が48.9%、「事業拡大のため」が15.4%、「定期的な求人のため」が51.1%、「その他」が3.5%となっており、「定期的な求人のため」が最も高かった。

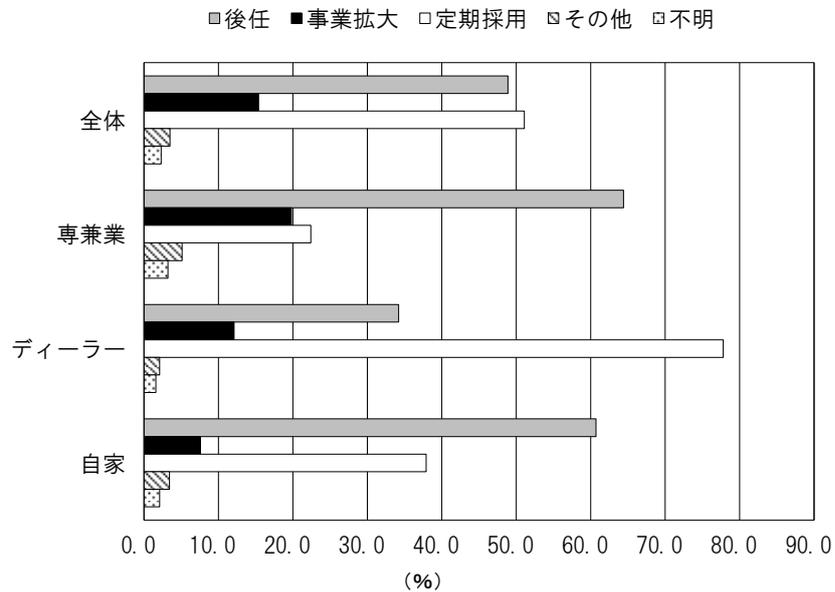
② 専兼業

専兼業では「退職者の後任として」が最も高く64.4%、次に「定期的な求人のため」が22.4%、「事業拡大のため」が19.8%、「その他」が5.1%となった。

③ ディーラー

ディーラーでは「定期的な求人のため」が最も高く77.8%、次に「退職者の後任として」が34.2%、「事業拡大のため」が12.1%、「その他」が2.1%となった。

＜第3表＞ 求人活動の理由（複数回答）



(3) 求人結果＜第4表参照＞

この1年間の求人活動の結果を回答してもらった結果は次の通りとなった。

① 全体の状況

求人活動を行った事業場の求人活動の結果は、「ほぼ予定通り整備士を採用」が38.8%、「整備士の採用は出来たが予定数には不足」が31.8%、「整備士を採用できなかった」が23.5%、「その他」が4.2%となって、「ほぼ予定通り整備士を採用」が最も高かった。

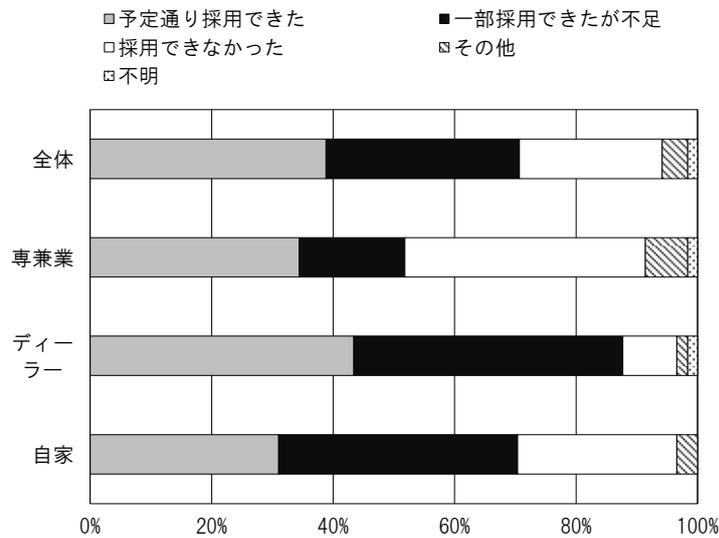
② 専兼業

「整備士を採用できなかった」が最も高く39.6%、次に「ほぼ予定通り整備士を採用」が34.4%、「整備士の採用は出来たが予定数には不足」が17.4%、「その他」が7.0%となり、約4割の事業場は採用できていない。

③ ディーラー

ディラーは「整備士の採用は出来たが予定数には不足」が最も高く44.3%、次に「ほぼ予定通り整備士を採用」が43.4%、「整備士を採用できなかった」が8.9%、「その他」が1.8%となり、ディラーは約9割の事業場が採用できている。

＜第4表＞ 求人活動結果



4. まとめ

- (1) 整備士不足と指摘している状況は、全体では約半数の47.9%となっている。業態別ではディーラーは63.2%で半数を超え、専兼業は39.9%となり、ディーラーの整備士不足は高い状態にある。
- (2) 求人活動については、全体では42.8%が行っている。業態別ではディーラーは67.1%が活動を行っており、専兼業の30.2%に比べて36.9%と約2倍の差が生じており、実際にディーラーの活発な求人活動が裏付けられた。
- (3) 求人理由については、専兼業とディーラーでは企業規模の差が生じており、不定期または突発的な「退職者の後任」が理由であるのは専兼業の割合が高く64.4%、従業員数が多いことにより毎年退職者が生じる「定期的な求人」については、ディーラーが77.8%と高い割合で行っている。
- (4) 求人結果については、専兼業とディーラーで「予定通り採用できた」と「一部採用できたが不足である」を合計した割合は、ディーラーは87.7%となり、専兼業の51.8%より35.9ポイント高い。
また、「採用出来なかった」に注目すると、専兼業は39.6%で、ディーラーの8.9%の約4.4倍高くなっている。

以上

参考

アンケート内容

自動車整備業界では、現在、整備士を目指す若者の減少や高齢化の進展により、整備士（国家資格取得者）の人材確保は大きな課題の一つとなっています。そこであなたの事業場の状況についてお尋ねします。

1. 人材確保の現況について

- あなたの事業場の現在の状況について、次のうち最も近いものを一つ選んでください。

- イ. 整備士不足の状態にはない
- ロ. 整備士不足の状態にはあるが、事業への影響は少ない
- ハ. 整備士不足の状態であり、事業に支障をきたしている

2. 求人活動について

- この一年間、あなたの事業場では整備士の求人活動を行いましたか。最も近いものを一つ選んでください。

(1) 求人活動を行った（次の①②も回答ください。）

①求人理由を選んでください。（複数回答可）

- イ. 退職者の後任として
- ロ. 事業拡大のため
- ハ. 定期的な求人として
- ホ. その他（ ）

②求人活動の結果について、最も近いものを一つ選んでください。

- イ. ほぼ予定通り、整備士を採用
- ロ. 整備士の採用はできたが、予定求人数には不足
- ハ. 整備士を採用出来なかった
- ニ. その他（ ）

(2) 求人活動を行っていない

ご協力ありがとうございました。